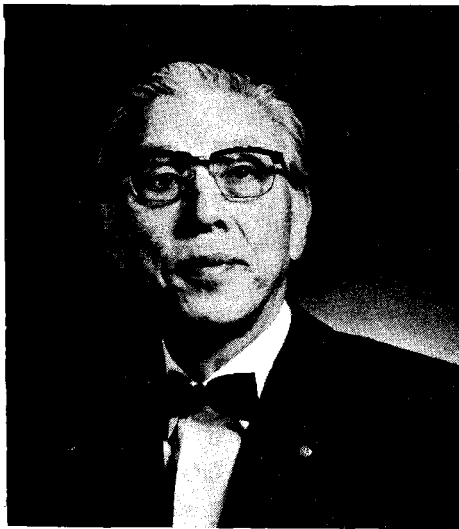


御挨拶

大岡山を去るにあたって



前学長 加藤 六 美

主 要 記 事

大岡山を去るにあたって	1
学生交流制度の整備進む	2
教育機器の紹介	4
昭和48年度科学研究費	7
人事異動	11
臨時車両入構の制限	12
学生災害互助会の活動状況	12

長い間——42年にわたる長い間——大変御世話になりました。

しかし 顧みて 一瞬のようだった気も致します。

私の青春の思い出も、戦争の恐怖も、その他 私の今までの苦楽のすべてが、この大学と共にあったと云っても、過言ではないでしょう。

この間 時に温く、また時に厳しく 私をはぐくんでいただいた この大学、および御関係の皆さんに私は衷心 御礼を申し上げます。

私が本学に入学致しましたのは昭和6年で、当時建築学科の教室は大岡山駅の北側、只今の東急病院のあたりにあったバラックでした。今の本館は昭和9年私達が卒業したすぐあとで竣工、その東側に その時植えられた親指大の銀杏の木が 今では本館よりも高くなりました。いつも私は その並木を見上げながら、「あの苗がこんなに大きく育った年月の間に、私は一体何をしたのだろう」と恥かしく思っています。

この42年の間に 大学が構外で授業をしなければならなかったことが2回ありました。一回は戦争中各学科が思い思いの田舎に疎開して行なった授業、他の一回は まだ一部の皆さんの記憶に新たな学生紛争の時、田町分校で行なった授業です。

熾烈なる学生紛争のさ中であって、私はありありと本学の真価を認めました。しっかりした教授会、多数の優れた教官群と学生諸君、忠実な事務職員諸氏を擁

した 本当に立派な大学です。平素多少は我儘な所がないでもない方々も、ここ一番という時には 真に大学の将来を考えて 協力して事に当たっていただきました。

このような試練を経て、今や本学は従前にも増してすばらしく立派な大学になりました。その規模こそそれ程大きくはありませんが、その質においては、正に日本で最も優れた大学の一つであることを、私は誰憚らずに、且つ自信を以て 皆さんに申し上げることが出来ます。

一つには 先輩から受け継いだよい伝統と、関係各位のよい御指導の賜であります。一つには 本学に在籍する皆さん方の 日々なゆまない努力の蓄積によるものであります。この点 私は皆さん方に この紙面をかりて 衷心感謝申し上げる次第であります。

私が学長在任中の 今までの4年間は 紛争解決から長津田構想着手への時期でしたが、次の4年には長津田の完成と大岡山との一環運営 という極めて重要な課題が残されて居ります。時あたかも 人物、識見共に抜群の川上正光学長の御就任を得ましたことは、本学にとって誠に幸運であったと云わなければなりません。

全学の教官、職員、学生の皆さん

終りに臨み、過去4年半にわたる私の 学長事務代理および学長としての在任中における皆さんの 心かなる御協力に 再度厚く御礼を申し上げます。

どうか 今後とも 御健康に御留意の上、各自その分に従って、足許を見つめながら 一步一步と、地道な努力を積重ねて行って下さい。

そのことが とりも直さず 皆さん個人の生活を楽しく幸せなものにするとともに、大学の発展にも、またひいては 世界人類の福祉にも 必ずやつながるものと、私は確信して居ります。

では皆さん 御気嫌よう

さようなら

大学院における 学生交流制度の整備すすむ

このたび、東京大学と本学の間で大学院における学生交流に関する協定が締結され、また、本学大学院学生の留学に関する取扱いが定められた。これにより、本学の大学院における学生交流制度の整備は一段と進められたわけである。

この協定および取扱いの内容を一言で云うならば、本学の修士課程および博士課程に在学する大学院学生は、所定の手続きをとり承認を受けることにより、東大大学院における授業科目を3科目6単位まで、留学先の外国の大学における授業科目を10単位までを本学大学院の単位として取得できることとなる。

以下、このような協定および取扱いが定められるに至った事情を眺めよう。

東大との相互乗り入れ

本学大学院と東大大学院工学系研究科の間で相互乗り入れ(単位の互換)が実質的に発足したのは昭和46年度に遡る。大学設置基準に大学にまたがる単位の互換についての記載のなかった当時において、関係者の多大の努力と工夫を通じて発足したこの単位互換は、大学間の交流と協力を促進し、大学の閉鎖性を打破する先駆的な試みとして高く評価され、京大と阪大の間の大学院での交流など、幾つかの大学間交流のモデルケースの役割りを果たしたことはよく知られている。

このような大学間の学生交流の進展の趨勢を受けて文部省は昭和47年4月大学設置基準等を一部改正し、単位互換の制度的な基盤を与えた。この改正は次の5点に要約される。

1. 大学は、学生が他大学の授業科目を履修することを認めることができること。
2. 大学は前項により学生が修得した単位を自大学で修得したものとみなすことができること。
3. 他大学で修得しうる単位は、学部では30単位、大学院修士課程では10単位、博士課程では20単位までとすること。
4. 学生が外国の大学へ留学する場合にも準用すること。
5. 大学院も、今回の措置に準じて取扱うことができること。

本学と東大との間の大学院における単位互換は、このようにして制度的な基盤を得たと同時に、それなりによそおいをあらたにすることが必要となってきた。すなわち、これまでは東大大学院工学系研究科委員長と本学大学院理工学研究科代表との間で授業科目履修

について協定を結んでいたのに対し、今回は東大大学長と本学学長との間の協定として正式に調印される運びとなったわけである。これまで3科目5単位までであったのが3科目6単位までに改められ、協定として文章が整備されたこと以外は、従来の協定の内容がそのまま、引継がれている。

発足以来今日までの交流の実績は次表に示すとおりである。新らしい協定の締結を機会に交流の一段の飛躍を期待したい。

聴 講	人数	学期			
		46・後	47・前	47・後	48・前
東大→東工大	人 数	15	11	4	8
	科目×人数	21	15	4	10
東工大→東大	人 数	28	11	11	16
	科目×人数	42	16	13	21

留学の取扱い

高等教育における国際協力の進展には著しいものがあり、本学にも数多くの外国からの留学生を迎えているのは周知の通りであるが、本学の大学院学生が外国の大学に留学する機会も次第に多くなりつつある。すでに昭和47年において2名の学生が文部省の学生国際交流制度の奨学金を受けて留学しており48年度においては4名を予定している。

これまで本学にはとくに留学に関する規定がなかったため、留学は本学を休学すること、したがって課程修了の延長を意味することとなる。大学院レベルにおける国際協力を促進し、あわせて国際的視野を持つ本学大学院学生の成長を期待して、留学についての上記の不備を解消しようとするのが今回の大学院学生の留学に関する取扱いの趣旨である。学則等の学内規定が制定されるまでの間、この取扱いによって処置されることとなる。これはまた前述の大学設置基準等の一部改正の4項にも関連するものである。

留学の機会を得た本学大学院学生が、この取扱いを有効に利用し、留学の成果をますます高められることを期待したい。

東京大学と東京工業大学との間における 学生交流に関する協定書

東京大学および東京工業大学は、両大学の規則に定めるところにより、東京大学大学院工学系研究科および東京工業大学大学院理工学研究科について、両研究科の学生がそれぞれ相手大学大学院研究科において授業科目を聴講し、単位を取得することを相互に認めることとし、次の事項について合意に達したので、ここ

に協定書を取り交わす。

1. 東京大学大学院工学系研究科および東京工業大学大学院理工学研究科は、修士課程および博士課程に在学する学生が、それぞれ相手研究科の相当する課程において、または、博士課程に在学する学生が、相手研究科の修士課程において授業科目の履修および単位の取得を希望するときは、その聴講を許可するものとする。
2. 両研究科は、聴講を許可した学生を「特別聴講学生」と呼称するものとする。
3. 両研究科が聴講を許可する授業科目数および授与する単位数は、各課程在学期間中1学生あたりそれぞれ3科目6単位以内とする。
4. 両研究科が聴講を許可する授業科目は講義のみとし、対象とする講義は特定しないものとする。
5. 両研究科は、特別聴講学生候補者を所定の様式により相手研究科あてに推薦するものとする。
6. 両研究科は、前項による推薦のあった候補者のうちから特別聴講学生を決定し、相手研究科あてに通知するものとする。
7. 両研究科は、特別聴講学生が聴講した授業科目の成績の評価および単位の授与については、自研究科の学生の場合と同様の方法によって行なうものとする。
8. 両研究科は、前項に定める成績および単位については、学期末に相手研究科あてに報告するものとする。
9. 両研究科は、特別聴講学生が聴講するうえで必要な設備の利用については、便宜を供与するものとする。
10. 特別聴講学生の聴講料は徴収しない。
11. 両研究科において、この協定の実施について必要な事項は、両研究科の協議により処理するものとする。
12. この協定書は、昭和48年4月1日から効力を有するものとする。

昭和48年8月1日

東京大学 総長 林 健太郎 ㊤
東京工業大学 学長 加 藤 六 美 ㊤

東京工業大学大学院学生の

留学に関する取扱いについて

1. 趣旨

本学学則第20条の2に規定するもののうち、本学大学院の研究科に在学する学生で、本学大学院の教育課程の一環として外国の大学（外国における正規の高等教育機関で学位授与権を有するもの、またはこれに相当する教育研究機関をいう。以下同じ）に留学し学修する学生（以下「留学生」という。）の取扱いについて

は、これに関する学内規程が制定されるまでの間、この取扱いによる。

2. 出願手続

留学を志望する者は、所定の願書（様式1）に留学計画書および留学を志望する大学の発行する留学を承諾する旨の証明書を添えて学長に願出しなければならない。

3. 留学許可

留学の願出があった時は、大学院専攻教官会議において教育・研究上有益と認める場合、大学院委員会および大学院教官会議の議により学長が許可する。

4. 留学期間

留学の期間は1年とする。ただし、博士課程の学生については、さらに1年を限り留学期間の延長を許可することがある。

5. 留学終了の報告

留学生は、留学期間が終了したときは、ただちに留学終了報告書（様式2）に留学した大学の発行する学修の成果に関する証明書を添えて、学長に報告しなければならない。

6. 履修の認定

大学は、留学中の学修の成果により、本学大学院における授業科目に相当する科目を履修したものとみなし、単位を認定できるものとする。

7. 認定単位数

前項に掲げる単位数は、修士課程および博士課程においてそれぞれ10単位を限度とする。

8. 認定の手続

履修の認定は、当該留学生の指導教官を含めた3名の大学院担当教官が行ない、大学院専攻教官会議および大学院委員会の議を経て、学長が認める。

9. 認定授業科目の成績表示

認定された授業科目の成績評価の表示は、合格とする。

10. 在学期間の延長

修士課程学生が留学したことにより在学期間を延長する必要がある場合は、本学学則第74条第1項に規定する特別の事情にあたるものとして、願出により在学期間の延長を許可できるものとする。

11. その他

この取扱いの実施に関しその他必要な事項は、大学院委員会の議を経て学長が定める。

12. この取扱いは、学生国際交流制度により派遣される学生の留学にかかる学事上の取扱いについても適用する。

13. この取扱いは、昭和48年10月9日から実施する。ただし、許可を得て外国の大学で学修している者については、昭和47年9月1日から適用する。

教育機器の紹介

教 務 課

人間は「耳」と「眼」という二つの情報受け入れ機関をもっているが、その両方を組合わせて用いると、その相乗効果のために、単独で用いるよりも約10倍もわかりやすく、かつ定着度もよくなる。

——これが視聴覚教育技術の原理である。

大昔の情報伝達は、もっぱら口述という形によっていたが、プラトーが地面に杖で文字や図を書いて弟子たちに教えたのが、おそらくこの視聴覚教育のはしりであったろう。その後、グーテンベルクの印刷機の発明が、教科書を生み、また、黒板の導入が教授方法を一変させたが、最近ではスライドやオーバーヘッドプロジェクター（OHP）、映画、テレビ（TV）などが加わって、その形態は、ますます多様化し、機能も高まり、教育効果がより増加するような工夫がされるようになった。

さて、本学でのこれらの教育機器の使用状況は、他大学に比べて非常に多いが、これは、先生方のご要望にこたえて、本学の97%の講義室には暗幕が設けられ、約半数の講義室にはスクリーンが取り付けられて、常時使用できる状況にあることからでも明らかである。

各教官が自分の教官室で保有されているスライドプロジェクターなどの機材を授業に持参して使用される場合がかなり多いが、教務課でも、一般のご要望に応じるため、次の業務を行なっているので、授業などにご利用の節は、おきがねなく申出てください。

(イ) 教育機器の集中管理・保有

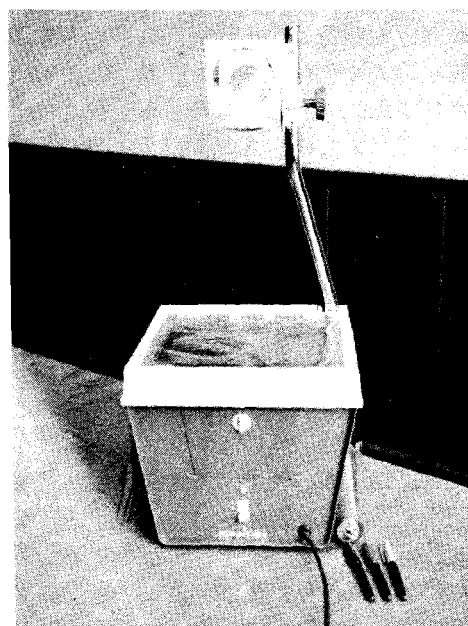
(ロ) 教育機器の貸出し

各講義室の設備機器、教務課保管の機器は、それぞれ表1、2に示してあるが、なお、OHPなどの使用が増す状況にあるので、先生方のご希望にそなう機種、数量などの充実を図るようにしたいと思いますので当課までご相談いただければ幸いです。

表1

教務課保管機器一覧

オーバーヘッド・プロジェクター			36台
スリーエム	66型		20台
〃	66型（グレアフリー付）		10台
〃	60型（携帯用）		2台
〃	399型（グレアフリー付）		4台
スライド映写機			9台
マスター	スーパーラックスⅢ型		6台
キャノン	オートスライド500EF		2台
キャビン	オートスライド		1台



オーバーヘッド・プロジェクター

16ミリ映写機		3台
北辰	SC-104BM	1台
エルモ	F-16HL	1台
〃	F16-250HL	1台
(全機種、光学・磁気再生、スコープレンズ付)		
8ミリ映写機		1台
エルモ	ST-1200（光学再生／磁気録音・再生、スーパー8／シングル8）	
16ミリ撮影機		1台
ベル・ハウエル		
VTRシステム（統一I型）		1式
ビデオコーダー	ソニー AV-3700	1台
ビデオカメラ	ソニー AVC-3300	1台
(ビューファインダー、ズームレンズ付)		
ビデオモニター	ソニー CVM-200	2台
(20インチ、置台付)		
拡声装置（移動式）		7台
トーア（携帯用、ワイヤレスマイク同時2チャンネル使用可）		2台
トーア（携帯用、補助スピーカー付）		2台
ビクター		2台
ナショナル		1台
テープレコーダー		2台
ソニー TC-365（オープンリール）		2台
スクリーン（1800mm×1800mm）		11台
吊下式		8台
三脚スタンド式		3台

表2
講義室設備機器一覧

講義室	室番号	収容人員	試験収容人員	設備機器						
				暗幕	スクリーン	拡声装置	※1 CCTV	※2 8・16%映写機	※3 スライド映写機	
本館										
101	地階 7号	210	120	有		有				
109	地階 67号	88	55	有						
111	1階 23号	144	階段	有	1台					
121	2階 26号	225	135	有		有				
122	" 95号	96	60	有						
131	3階 5号	77	44	有						
133	" 7号	77	44	有						
134	" 8号	90	50							
135	" 75号	91	階段	有						
136	" 15号	54	33	有						
137	" 31号	66	33	有						
141	屋上東側	144	96							
第4新館										
222	2号館2階	254	階段	有	2台	有				
232	" 3階	254	"	有	3台	有	有	※4 ステレオ	※5 R.A.	
242	" 4階	254	"	有	2台	有	有			
213	3号館1階	132	66	有	2台	有				
223	" 2階	132	66	有	2台	有				
233	" 3階	132	66	有	2台	有				
243	" 4階	132	66	有	2台	有				
261	1号館6階613号	52	34	有						
第3新館										
331	3階 316号	396	224	有(電動)	1台(電動)	有		有	有	
332	" 314号	102	68	有						
333	" 312~313号	145	81	有						
334	" 311号	59	33	有						
335	" 315号	67	39	有						
341	4階 415号	77	49	有						
342	" 414号	100	56	有						
343	" 413号	59	33	有						
344	" 412号	59	33	有						
351	5階 515号	77	49	有						
352	" 514号	102	57	有						
353	" 513号	59	33	有						
354	" 512号	59	33	有						
355	" 511号	59	33	有						
南棟										
411	1階 101号	81	50	有						
412	" 151号	80	44	有	2台		有			
413	別棟共通講義室	144	階段	有(電動)	2台	有	有			
421	2階 209号	48	28	有						
中棟										
521	2号館2階206号	55	30	有	2台					
522	" 207号	64	35	有	2台					
523	" 215号	48	32	有	2台					
524	3号館2階201号	131	71	有	2台					
525	" 202号	131	71	有	2台					
526	" 203号	205	117	有	2台	有				

講義室	室番号	収容人員	試験収容人員	設備機器					
				暗幕	スクリーン	拡声装置	*1 CCTV	*2 8・16%映写機	*3 スライド映写機
中棟									
527	3号館 2階204号	205	117	有	2台	有			
528	1号館 2階221号	47	26	有					
529	" 222号	45	25	有					
52A	" 274号	45	25	有					
52B	" 275~277号	81	45	有					
北棟									
621	2階 251号	78	45	有					
622	" 254号	45	26	有					
623	" 255号	111	64	有					
624	" 256号	47	27	有					
625	" 261号	111	64	有					
626	" 208号	111	64	有					
631	3階 351号	78	45	有					
東棟									
711	1階 153号	64	32	有					
721	2階 255号	69	41	有					
緑ヶ丘1号館									
811	1階 103号	84	48	有	2台				
812	" 105号	49	28	有	2台				
813	" 106号	84	48	有	2台				
814	" 107号	84	48	有	2台				
緑ヶ丘3号館									
911	別棟1階101号	154	77	有	3台 (うち1台電動)	有			
912	1階 104号	80	50	有	2台				
921	2階 203号	80	50	有	2台				
精研									
精研	3階 57号	84	44	有					

※1 CCTV (閉回路テレビ)

※2 8%映写機 リコー サウンド8

16%映写機 北辰 MR-6B (光学・磁気再生, スコープレズ付)

※3 スライド映写機 マスター オートルックスII

※4 ステレオ ビクター

※5 R.A. (レスポンスアナライザー): 集団反応測定装置 (回答率メータ, 個人別反応表示ランプ付)

利用申込および使用方法

1. 教務課保管機器について

- (1) 申込みは, 3週間前から受付けます。
- (2) 使用法は, 機器貸出しの際に説明します。
- (3) オーバーヘッド・プロジェクターについては, 毎週, 授業で使用する場合は, 当該講義室に常設するように致しますので, その旨の申込みをしてください。

なお, 不定期の使用については, 他機器同様, 前述の要領で行ないます。

2. 講義室設備機器について

(1) 申込みについて

- (イ) 暗幕, スクリーンについては, 特に申込みの必要はありません。直接, 講義室へ行って使用できます。
- (ロ) 上記以外の機器の申込みは, 3週間前から受付けます。なお, 授業で常時使用する場合はこの限りではありません。その旨の申込みをしてください。

(2) 使用方法について

- (イ) 暗幕は“フサ”(柱に固定する布製バンド)をはずして使用します。使用後は必ずフサでとめてください。
- (ロ) スクリーンは, スクリーン下部についている“使用上の注意”をよくお読みの上, 使用してください。
- (ハ) 上記以外の機器の使用法は, 申込みの際に説明します。

利用申込先

教務課 第一教務掛 内線2046番(河上)

なお, 教育機器の紹介にあたっては, 教育工学開発センターのご協力をいただきましたので, ここに付記させていただきます。

昭和48年度

科学研究費の決定

昭和48年度の科学研究費の交付については、本学関係では次の通り決定した。(継続を含む。)

一般研究(A)

物理系	5件	49,600
化学系	3件	9,880

一般研究(B)

物理系	15件	66,060
化学系	6件	19,150
生物系	1件	2,510

一般研究(C) 32件 44,910

一般研究(D) 12件 4,410

奨励研究(A) 39件 10,570

特定研究(1) 5件 31,450

特定研究(2) 3件 12,000

総合研究(A) 5件 11,720

総合研究(B) 2件 1,210

試験研究(1) 5件 8,070

試験研究(2) 17件 34,220

合 計 150件 305,760

(研究課題, 研究代表者, 研究費の順)

一般研究(A)

(単位: 千円)

(物理系)

MHD非平衡流の研究(継続) 塩田 進 3,500

電子衝撃による原子・分子多価 織田 暢夫 7,000

イオン生成メカニズムの研究

3粒子相互作用を用いた光機能 古川 静二郎 14,500

デバイスの研究

空間回路網によるパターン処理 飯島 泰蔵 15,600

システムの研究

建築物による電波障害の防止の 末武 國弘 9,000

研究

(化学系)

金属精製および凝固過程におけ 染野 檀 280

る微量成分の挙動に関する基

礎的研究(継続)

カルコゲナイドガラスへの金属 井上 英一 1,000

の光拡散を用いる高性能記録

材料の研究(継続)

気相における励起エネルギーの 森 雄次 8,600

緩和過程

一般研究(B)

(物理系)

電子計算機の数学的模型運用の 木村 泉 5,800

ためのソフトウェアの開発研

究(継続)

視覚系の色覚情報処理メカニズ 池田 光男 1,200

ムに関する研究(継続)

高温粉末成形品の精度向上に関 浅枝 敏夫 2,000

する研究(継続)

ガス遠心分離機による濃縮プロ 高島 洋一 1,700

セスに関する研究(継続)

超音波3-フォノン過程による 比企 能夫 3,600

4次弾性定数の決定

多軸繰返し負荷における塑性異 白鳥 英亮 3,500

方性と低サイクル疲労強度

精密加工面のシステム解析に関 阿武 芳朗 6,400

する研究

高速歯車伝動機構に関する基礎 林 輝 2,460

研究

液体金属の電磁輸送に関する研 富田 幸雄 6,500

究

軸に直角な磁界を受けるMHD 青木 弘 4,950

ジャーナル軸受

燃焼に伴うNO_xの生成・分解 森 康夫 6,500

のESRによる熱工学的研究

モレキュラビーム法による化合 酒井 善雄 6,400

物半導体薄膜の形成とオブレ

エレクトロニクスへの応用開

発に関する研究

人工環境内温熱条件の人体影響 小林陽太郎 3,300

のための総合指操作に関する

実験的研究

高力アルミニウム合金の応力腐 高橋 恒夫 5,450

食割れの発生と伝播に関する

研究

拡散接合に関する基礎的研究 石井勇五郎 6,300

(化学系)

不均一系 α -オレフィン重合触 慶伊 富長 800

媒のモデルとしての均一系錯

体触媒の研究(継続)

感光性高分子化合物の合成と反 大河原 信 200

応に関する研究 (継続)				性表面波の発生			
化学装置内の乱流移動現象に関する研究 (継続)	伊藤 四郎	2,250		超高利得半導体ヘテロ接合光トランジスタの開発に関する研究	高橋 清	1,910	
温度変化に伴う無機結晶中の原子の挙動の研究	丸茂 文幸	4,900		放物鏡アンテナのサイドロープおよび後方放射特性の改善	関口 利男	1,540	
フッ素化オレフィン類の利用に関する研究	石川 延男	4,300		光集積回路用のレーザの研究	末松 安晴	1,860	
パルス・フーリエ変換 ^{13}C NMRによる高分子化合物の反応機構の研究 (生物系)	西岡 篤夫	6,700		層状粘土地盤の多次元圧密と流動に関する研究	山口 柏樹	1,700	
顕微操作法による核および細胞質の機能の解析	平本 幸男	2,510		地盤の構成と地震動に関する研究	小林 啓美	1,580	
一般研究 (C)				高張力鋼のおくれ破壊の発生の観察と音波発生	中村 正久	1,450	
高圧下の金属材料の疲労強度に関する基礎的研究 (継続)	中沢 一	500		金属の表面欠陥と電気化学的活性	春山 志郎	1,160	
高層・高密度住宅のアメニティに関する研究 (継続)	清家 清	1,000		アルキル銅およびニッケル錯体の合成と触媒作用	山本 明夫	1,700	
中井家文書による近世造営史の研究 (継続)	平井 聖	900		高圧下における高分子物質の粘性	野瀬 卓平	1,350	
多様体の大域的理論	雨宮 一郎	1,080		ポリアミノ酸の液晶構造と物性に関する研究	植松市太郎	1,400	
ペロブスカイト形酸化物における局在d電子と非局在d電子の相互作用	野村昭一郎	1,200		高分子末端—末端, 末端—側鎖間の反応に関する基礎的研究	加倉井敏夫	1,150	
芳香族化合物・ハロゲン電荷移動錯体の共鳴ラマン効果	前田 史郎	1,000		電荷移動相互作用を示す綜合系高分子化合物の合成と性質に関する研究	田附 重夫	1,600	
火成岩中の揮発性成分の定量	小沢竹二郎	1,100		液体混合物中の微量成分の工業的分離に対する逆相クロマトグラフィーの応用	早川 豊彦	1,500	
高周波帯磁率およびスピン・エコー法の測定による“バブル用”磁性材料の研究	橋本 巍洲	1,450		一般研究 (D)			
クリープによるき裂の進展の研究	坂田 勝	1,220		近翟・番衆・奉公衆	福田 豊彦	210	
半熔融金属の加圧成形に関する研究	吉川 昌範	1,610		遊離基のケイ光寿命に関する研究	小尾 欣一	320	
人工関節の耐久性向上に関する研究	笹田 直	1,660		放射線でポンプした炭化水素凝縮系での電子再結合による化学レーザーの研究	山崎 秀郎	320	
超高力ボルトの疲れ強さ向上に関する研究	吉本 勇	1,490		電子スピン共鳴法による遊離基($\text{NH}_2 \cdot \text{ClO}_2 \cdot \text{ClO}_3$)の構造と分子運動の関係 (磁気共鳴における遅い異方的分子運動による緩和過程)	霜越 一夫	330	
光学的手法による, 熱伝達熱変形測定法に関する研究	一色 尚次	1,640		精密機械構造における接合面伝熱機構に関する研究	塚田 忠夫	420	
対向流拡散火災によるNOの生成に関する熱工学的研究	大竹 一友	1,680		超硬質固体被服法による動力伝達用歯車の負荷能力向上に関する研究	横山 正明	380	
弾性ロータの振動とモードつりあわせ	田村 章義	1,690		超音速素子に関する研究	山根隆一郎	380	
変形しても動作する軟かい機械の研究	森 政弘	1,280		軸流回転機械の翼の振動	長松 昭男	410	
電気自動車用燃料計の開発的研究	宮入 庄太	1,540		電動機回転ムラの精密測定法および軽減法に関する研究	片岡 照雄	430	
超耗波帯の開発に関する研究	川村 光男	1,330		高周波ズバッタリングによる磁気バブル素子用フェライト単結晶膜の作製	直江 正彦	380	
フェライト膜による超高周波弾	山中 俊一	1,640					

過疎化に伴う集落再編成地区の 住空間研究	藤本 信義	430	わん曲水路における二次流に関 する研究	池田 駿介	260
モリブデン・アルキルおよびモ リブデンハイドライド錯体の 合成と反応性	伊藤 卓	400	モアレ法および有限要素法によ る鉄骨構造の接合部の塑性化 評価に関する研究	佐藤 亘宏	270
奨励研究(A)			高窒素オーステナイト鋼の粒界 反応型析出の速度論的機構の 研究	藤平 昭男	260
正曲率リーマン多様体の位相的 微分位相的構造	塩浜 勝博	390	爆発圧接クラッドの機械的性質 に関する研究	恩沢 忠男	260
アイソバリックアナログ状態共 鳴反応による核構造の研究	足立 実	270	酸素濃淡電池用の新しい固体電 解質(イットリアチタニア固 溶体)に関する研究	水谷 惟恭	270
炭化水素燃焼炎中のC ₂ (スワン バンド)の測定	疋田 巧	280	雰囲気調整節下高温高压熱水を 利用した酸化物の相平衡と単 結晶の育成	平野 真一	270
直鎖および分枝パラフィンの ¹³ C 化学シフトの分子軌道法によ る研究	安藤 勲	270	アルカリ金属交換ゼオライトの 酸・塩基両性触媒作用	八嶋 建明	320
多孔質バイコールガラス上での 光励起亜硫酸ガスの反応	大塚 潔	270	超高感度ジアゾニウム化合物感 光材料に関する基礎的研究	山瀬 利博	270
ファブリーペロー干渉計を用い たスタルク変調マイクロ波分 光器の開発	広瀬 千秋	280	生物電気化学センサーに関する 研究	相沢 益男	270
層状ケイ酸塩鉱物の生成過程に 関する実験的研究	浦部 和順	230	酸化マグネシウムクリープ と内部応力に及ぼす微量添加 物の影響に関する研究	安田 栄一	270
工作機械のボルト結合部の減衰 能発生機構	小泉 忠由	250	シリカマグネシア触媒によるア ルコールケトン間の水素移行 反応の機構解析	新山 浩雄	270
石削砥石車一加工作系における 局所熱伝達率の研究	西脇 信彦	300	新規有機半導体材料の合成 重水素化を手段とするアミノ酸 ポリアミノ酸の研究	上野 芳男 小見山二郎	270 320
歯車転造に関する研究(転造方 向を反転させる成形転造法の 基礎研究)	賀勢 晋司	300	高分子物質の延伸と熱収縮の研 究	石鍋 孝夫	270
高速静圧軸受の動特性に及ぼす キャビテーションの影響	中原 綱光	300	高粘性および高濃度溶液におけ る拡散係数とマイクロ粘度の測定	星野 定司	270
対偶の遊びを考慮した機械シス テムの動特性	下嶋 浩	250	気泡塔型油水分離器の設計に関 する研究	小嶋 英一	230
有限要素法および銅メッキ法に よるねじ結合体の応力解析	丸山 一男	250	ステロール系殺虫剤の合成研究	森崎 益雄	300
歯車の動のかみあい伝達誤差と 騒音に関する研究	林 巖	300	好熱好酸性菌の膜透過における プロトンポンプの役割とそれ に対する温度の影響	小山 範征	150
弾性管内の粘性流体の非定常流れ 空気圧制御形液体流切換素子の 開発	浦田 暎三 太田 道男	250 240	特定研究(I)		
自然対流熱伝達に及ぼす電場の 影響	土方 邦夫	250	清浄真空中蒸着による薄膜結晶 成長機構の研究(継続)	本庄 五郎	9,150
回転円筒の振動に関する研究	遠藤 満	250	教育機器における最適構成要件 の解明ならびに学習プログラ ム作成に関する基礎的研究	坂元 昂	5,000
無効電力の一補償方式とその装 置の開発	深尾 正	250	国際環境の総合的研究	永井陽之助	12,300
マイクロ波弾性波の導波管に関 する研究	清水 康敬	230	ヤルタ体制の形成と冷戦の開始	永井陽之助	2,500
画像伝送用の有機材料による集 束性ファイバ開発の基礎研究	伊賀 健一	360			

東南アジアにおける国民形成と 文化的統合の過程	岩田 慶治	2,500	工作機械の最適構造自動設計シ ステムの開発研究	伊東 誼	1,750
特定研究(2)			サーキュラ・デバイディングマシ ン用超精密ウォームギヤの試作	豊山 晃	1,300
負性抵抗発振の臨界点ゆらぎに 関する研究	川久保達之	4,000	万能歯車かみあい試験機の試作	石川 二郎	1,750
エネルギー変換機能型ポリマー の合成	大河原 信	2,000	H P C ロッドを使用した複合機 造物の実用化に関する研究	長滝 重義	1,900
データ構造と言語に関する研究	榎本 肇	6,000	高合金超耐熱鋳鋼の開発とその 高温強度に関する研究	田中 良平	1,650
総合研究(A)			超高温示差ガス分析装置の試作	加藤 誠軌	2,000
高等教育機関の設置基準に関す る研究	慶伊 富長	1,400	Cr ₂ O ₃ - Ti O ₂ 系電磁気材料の 試作	宗宮 重行	1,350
電子状態間の遷移とエネルギー 移動	田中 郁三	2,320	コラーゲンの電気化学的成形お よび応用	鈴木 周一	1,600
金属を対象とした相変化を伴う 熱伝導の研究	片山 功蔵	3,000	チーグラナッタ解触媒による α オレフィンの無溶媒重合方式 の確立	慶伊 富長	1,600
繊維高分子と染料および仕上剤 との相互作用に関する研究	飯島 俊郎	3,800	ウラン濃縮用超高速遠心分離機 の開発	高島 洋一	7,500
技術の移動と環境の適応	山崎 俊雄	1,200			
総合研究(B)			次期学長予定者に 川上正光名誉教授選出さる		
X線粒子線回折法による結晶成 長の研究	高木 ミエ	810	前号に紹介したとおり、加藤現学長の任期満了に伴 う次期学長予定者選考のための選挙が9月3日の職員 推せん投票に始まり、9月7日の第1次・第2次投票 を経て9月19日に第3次投票が行なわれ、その結果次 期学長予定者に本学川上正光名誉教授が選出された。		
環境問題に関する触媒作用の基礎 研究	越後谷悦郎	400			
試験研究(1)			第9回ユネスコ国際大学院 研修講座開講		
特殊マイクロマンピュレーター の開発と応用	平本 幸男	1,870	本年10月から開講された第9回ユネスコ国際大学院 研修講座(化学・化学工学)研修生は下記14名で、こ の中にはフィリッピンからの女性1名が含まれている。		
アスファルト混合物の粘弾性特 性に関する実験的研究	渡辺 隆	1,200	フィリッピン	Miss. Caridad Goze	
高分子膜のイオン選択透過によ る廃水処理	飯島 俊郎	1,100	タイ	Mr. R. Angurarohita	
フェノールの選択的メチル化に よるP-クレゾールの合成	原 伸宜	2,300	韓国	Mr. Suk-Zu Song	
医療用高分子材料に関する研究	河合 徹	1,600	イラク	Mr. Eung-Ryul Kim	
試験研究(2)			エジプト	Mr. S. A Isa Al-Dyni	
最適な動特性を有する静圧案内 面の試作研究(継続)	益子 正己	500		Dr. S. M. F. Abdel-Rahman	
転写法による半導体薄膜の生成 とその応用(継続)	酒井 善雄	900	インド	Dr. Khalaf. A. M. Abdel- Salaam	
ループアンテナを用いたBack fireアンテナの研究(継続)	関口 利男	900	バングラデッシュ	Dr. S. K. Syal	
高圧下における土の力学的特性 に関する研究(継続)	吉見 吉昭	1,800	スーダン	Mr. S. B. Rana	
軸流翼車による同位体分離の研 究	千葉 廉	5,320	ポーランド	Dr. M. A. Rahman	
強誘電体磁器の透明化の研究	野村昭一郎	900	ハンガリー	Dr. El Dayim Musa	
切削抵抗標準の設定に関する研究	臼井 英治	1,500	パキスタン	Dr. M. W. Pajak	
				Mr. Zoltan Zubovics	
				Mr. B. A. Nasir	

